

山行報告 日原川本流：渡渉訓練

【場 所】 奥多摩 日原川本流

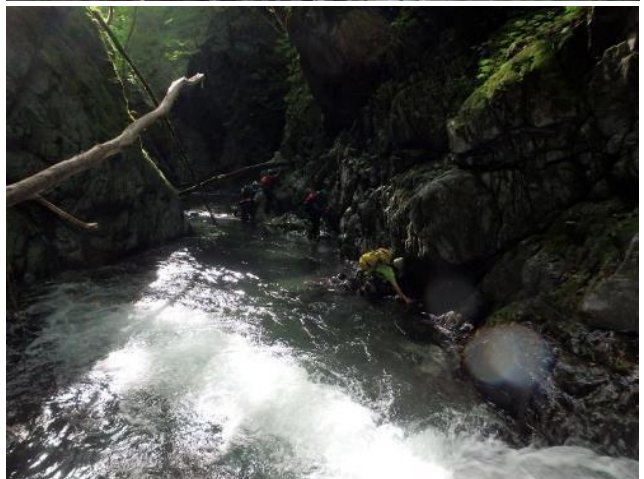
【日 時】 2016年6月26日(日) 晴れ

【参加者】 CL上茂、SL渡邊3、SL大塚、SL鈴木玲、柘植(記録)、萱野香、小原
小俣、澤田路、加藤、吉川、井上里

【記 録】 八丁橋 7:00→日原川の谷底 7:20→巳ノ戸橋付近で渡渉訓練 (8:40~10:10)
→日陰名栗沢出合 11:20→林道上で引上げ訓練 (11:40~12:40) →13:00 八丁橋

【内 容】

5月の西丹沢マスキ嵐沢初級講習会に引き続いて、沢の渡渉訓練を奥多摩日原川本流で実施した。土曜の夜は日原鍾乳洞手前の駐車場で仮眠、翌日早朝起床して八丁橋に向かう。昨日までの雨模様で水量が心配であったが、見下ろす日原川はそれほど増水している風でもなく、少し安心する。八丁橋で身支度し、上流方向へ15分林道を歩くとガードレースの切れ目に赤いペンキマークがあり、そこから踏み跡に入る。降りきったところは深いゴルジュの中だが、やはり水量は平水レベルを超えてはいないようだ。渡邊3SLを先頭に進むと、ほどなく左から巳ノ戸谷が入る。さきほどの踏み跡は巳ノ戸谷への下降ルートではないかと思う。ここから巳ノ戸橋(巳ノ戸谷と日陰名栗沢のあいだのヤケト尾根の末端にあり、日原川を渡る吊橋)までは深い淵やゴルジュの通過が続き、適度な困難さでとても楽しいところだった。リーダーやサブリーダーはさすがのへつりやルート採りで全体をコントロールし、ほかの参加メンバーは若干の技量の差はあるものの安全にいろいろな経験を積めたのではないかと思う。巳ノ戸橋を少しすぎたところが両岸にスペースが広がり、渡渉訓練に適した場所なので、ここでザックを下ろして末端交換三角法での渡渉訓練を行う。









日陰名栗沢の出合

訓練終了後は再び本流を遡行するが、下部ほど困難なところはなくなり、前半よりもペースはあがる。1時間ほどの遡行で日陰名栗沢の出合に到着するが、これから沢登りを行うにはちょっと時間も遅いということで、沢はここで切り上げて、上部を走る林道にもどって別の訓練をしようということになった。15分ほど急な尾根の末端を登ると再び林道に飛び出る。出たところは尾根の切通しになっており、その斜面を利用して引上げ訓練を行った。みな熱心に取組んでおり、とても有用な訓練であったと思う。



訓練終了後はクマ対策として爆竹の鳴らし方の練習も追加で行い、13時くらいに全体訓練を終了して八丁橋に戻った。今回はもともと泊まりの沢の体験と渡渉訓練ということで、当初は長沢谷・日陰谷を計画していたが、土曜の悪天予報のため、直前に日帰りに変更したためコースの物色に少し時間がかかった。日原川本流は上茂リーダー発案で決めたが、とてもよい訓練場所であった。渡渉訓練だけならほかにも候補はいくつもあるが、遡行だけを目的の記録もあるように単体で目標としても十分に楽しめる場所であった。講習は渡邊3SLが担当したが、松岡修造も真っ青の熱意あふれる&分かりやすい指導でとてもよかった。大塚SLと鈴木玲SLも主にしんがりパーティーのフォローをしっかりとってくれた。こうした技術は常日頃行っていないといざ本番となったときにうまくいかないものなので、参加者のみなさんはこれからの個人山行で意識して時間を見つけては取組んでほしいと思います。

記録担当 : 柘植秀樹